



お客様情報

株式会社紀文食品

本社:東京都中央区銀座5-15-1

設立:1947年9月26日

資本金:44億2,580万円(2010年6月現在)

売上高:676億円(2010年3月期)

代表取締役社長:保芦将人

従業員数:1,478名(2010年3月現在)

<http://www.kibun.co.jp/>

1938年創業の食品メーカー。北海道、東部、東京、西日本に事業部があり、恵庭、東京、船橋、横浜、静岡、岡山総社に工場を持つ。また海外も、タイ、アメリカ、香港、シンガポール、台湾に拠点を置いている。紀文グループ(国内8社、海外5社・5カ国)は、魚肉加工品を主体としたチルド食品事業を中心に幅広く事業展開を進めており、お客様へいち早く安全安心で美味しい状態でお届けしたいという思いのもと、その業務効率化のためにIBM Lotus Notes/Dominoを積極的に活用している。

株式会社紀文食品

ユーザー発想で情報を活用できる

Lotus Notes®をフル活用し、業務効率化を促進

IBM® Lotus Notes/Domino(以下、Lotus Notes)の草創期からの先進ユーザーである紀文食品では、次々とLotus Notes関連ソリューションを導入し、その適用範囲を広げてきました。Lotus Notesにはどのようなメリットがあり、同社にどのような変化をもたらしたのでしょうか。同社でLotus Notesの活用を推進する増田正彦氏と、IBMのパートナー企業であり、同社のLotus Notes活用を支援するリコージャパンの山岸久晃氏に話を伺いました。

情報がオープンになり、社員の発想が変わった

——13年前からのLotus Notesユーザーということですが、最初に導入したきっかけはどんなことだったのでしょうか。

増田 全国の支社と工場を結ぶネットワークが完成して、ITを使って仕事ができる環境が整ったことがきっかけでした。他の企業ではメールが導入されるようになりましたが、メールだけではなく、データベース機能もあって情報を共有できる「Lotus Notes」という製品があることを知りました。Lotus Notesであれば、一歩踏み込んだ情報活用ができるのではと考えました。

たとえば、Lotus Notesではメールにリンクアイコンを付けることで、見てもらいたい情報を瞬時に開いてもらうようにすることができます。単なる情報共有ではなく、プル型とプッシュ型の両方に対応していました。今のインターネットに近いものがすでに実現されていたね。

——新しいやり方になじめないということもあると思いますが、すぐに全社員の方に使われるようになったのでしょうか。

増田 大きく変わったのはLotus Notesが導入されてから3年後、PCが一人一台体制になってからです。欲しい情報を集めておき、すぐに引き出せる。このように「自分流」でLotus Notesが使えるようになってから本格的に使われるよ



株式会社紀文食品
事業統括室
システム管理部長
増田 正彦氏



RICOH

パートナー企業

リコージャパン株式会社

創立:1959年5月2日

資本金:25億円

代表者:代表取締役 会長執行役員 遠藤 紘一

代表取締役 社長執行役員 CEO

畠中 健二

売上高:6,082億円 (2010年度計画)

従業員数:約13,500名 (2010年7月1日現在)

<http://www.ricoh-japan.co.jp/>

OA機器、通信機器および関連機材、消耗品など、リコー製品を中心とする販売と、実務改善を含めたコンサルティングから、システム設計、アフターサービスまでのオフィスのトータルソリューションを提供。また、IBMのパートナー企業として、IBM Lotus Notes/Dominoの販売・サポート業務を行っており、リコーの販売の社内での導入実績やノウハウをもとにソリューション営業を展開している。

うになりました。良いもので必要だとわかれば使うようになりますし、一度覚えればアレルギーも消えてしまいます。

それまでの紙による伝達と違って、瞬時に全社員が情報を共有できるようになったことは大きなメリットでした。業務スピードがアップし、ペーパーレス化も進み、郵送にかかる手間やコストもなくなりました。

——社員の方たちの仕事のやり方にも変化があったのでしょうか。

増田 仕事の進め方だけでなく、業務に対する発想が変わりましたね。昔は、情報は上司が先に把握し、それを部下に伝えていました。しかし、Lotus Notesによって情報がオープンになり、そういう枠が取り払われ、経験の差はあっても皆が同じ土俵の上で考えることができるようになりました。それだけ活発にアイデアがでるようになり、発想が豊かになりましたね。

——Lotus Notesの導入が社員のモチベーションアップにもつながっているということですね。

さらなる付加価値を提供するために 新しいソリューションを導入

——Lotus Notesの関連ソリューションを次々と導入されているようですが、その狙いはどんなところにあるのでしょうか。

増田 Lotus Notesはアプリケーションを開発しやすい製品で、社内でも多くのアプリケーションが開発されています。稟議書や経費精算システムなど、完成度の高いものや開発工数が多いものは社外で作られたテンプレートを導入してきました。実際にLotus Notesが使われるようになって全社員のポータルになったことによって「さらに付加価値を提供していきたい」と考え、関連ソリューションを積極的に導入しています。

まず導入したのは、チャット感覚でコミュニケーションできる「IBM Lotus Sametime®」(以下、Lotus Sametime)です。次にLotus Notesクライアントを持たないグループ会社にも情報を提供できる「IBM Websphere® Portal」。職種ごとに必要な情報を集めて提供することで、新人でも「これを見れば仕事が終わる」という発想で作りました。また直近に導入したのが「IBM Lotus Quickr®」です。プロジェクトや部署ごとに、Lotus Notesと連動してファイルを保管することができ、Lotus Notesの延長線上にさらに詳細な情報を置く感覚で利用できます。

— 新しいソリューションの導入では、それをサポートするリコージャパンさんも大変だったのではないのでしょうか。

山岸 リコーグループとしても情報インフラとしてLotus Notesを積極的に活用していますが、紀文食品様が先行して導入されるケースもあります。検証や導入で苦労することもあります。IBMからのサポートもあって、当社としては良い経験になっていると思います。



リコー販売株式会社
ソリューション統括本部
テクニカルセンター
情報系システム技術室
情報系システム販売グループ
担当係長
山岸 久晃氏

“SEはお客様に育てられるもの”とよく言われますが、最も先進的なユーザーである紀文食品様と仕事をする中で、一緒に学んで成長させていただいていると実感しています。

使われていない部分を含めて Lotus Notesをさらに進化させる

— 今後の展開としてはどのようなことをお考えでしょうか。

増田 今、社内では申請系を中心に常時約100本のLotus Notesアプリケーションが使われていますが、開発済みのものを含めると300本くらいアプリケーションがあります。この使われていない200本について見直していきたいと考えています。

使われていないものの中には、目的や機能が間違っていたわけではなく「早過ぎて使われなくなったもの」もあるかもしれません。有用なアプリケーションを発掘して広く知らせれば、それも使われるようになるはずですよ。

— 使うかどうかはユーザー次第ということですね。情報活用という目的のためにはお仕着せではなく、ユーザーの発想を優先させることが大事ですね。

増田 まさにその通りです。良いものであれば、必要な情報を知らせることで活用してくれるようになります。

高いセキュリティ・レベルが必要で敬遠されがちだった人事関係のアプリケーションも、Lotus Notesのセキュリティ機能の良さがわかると、ユーザーの方が積極的になりました。使うかどうかはユーザーの選択に任せて導入したLotus Sametimeも口コミで広がり、今は常時、社員の3割が使っています。こうしたユー

図 IBM Lotusポートフォリオ



ザー主導のニーズに対応できるのがLotus Notesの強みだと思っています。

山岸 紀文食品様は先進ユーザーであるため、優れたアプリケーションが埋もれている可能性は高いでしょうね。前のものに立ち戻って掘り起こすというのは良いアイデアだと思います。ぜひ、お手伝いさせてください。

増田 Lotus Notesは“これで完成”というのがない製品だと思います。使われていないアプリケーションから学ぶこともあるでしょうし、IT環境が進化したことで使えるようになるケースもあるでしょう。また、すでにあるのに使えていない機能もあると思います。アプリケーションや機能などの情報を、広くユーザーに知らせていきたいと考えています。リコーさんには、そういう面でもぜひご協力いただきたいですね。

導入製品

- IBM Lotus Notes/Domino



日本アイビーエム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd. 2010

All Rights Reserved

06-10 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.com、Lotus、WebSphereおよびLotus Notes、Quickr、Sametimeは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

このカタログに掲載されている情報は2010年6月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネスパートナーの営業担当員にご相談ください。